

2020 読書メモ 10月号

やなぎさわかつひろ

柳 沢 克 央 (信州・上田仮説サークル)

2020年10月24日(土), 10月例会用レポート

○今月までに読んだ本(順不同)

◆ユヴァル・ノア・ハラリ著『ホモ・デウス』(下巻)(河出書房新社・2018年)

○研究に資金を投入すれば、科学が飛躍的に発展し、テクノロジーの進歩が加速する。新しいテクノロジーが経済成長を促し、経済が成長すれば、さらに多くのお金を研究に回せる。月日の流れに伴って、私たちはますます多くの食べ物を食べ、ますます速い乗りものに乗る、ますます優れた機械を使うことができる。いつの日か、人間の知識は膨大なものになり、テクノロジーが目覚ましく進歩し、私たちは永遠の若さを与えてくれる秘薬や、真の幸福をもたらす秘薬、その他、何であれ望みどおりの秘薬を創り出せる。そして、どんな神にもそれを止めることはできない。(9 ペ)

○人間至上主義によれば、人間は内なる経験から、自分の人生の意味だけではなく、森羅万象の意味も引き出さなくてはならないという。意味のない世界のために意味を生み出せ——これこそ人間至上主義が私たちに与えた最も重要な戒律なのだ。(34 ペ)

○…人間の考えを拠り所とする意味はみな、必然的に脆く儂い。したがって、絶対的な真理と、人生と森羅万象の意味は、超人間的な源から生じる永遠の法に基づいていなければならない。

この見方のおかげで、神は意味だけではなく権威の至高の源泉にもなった。意味と権威はつねに切っても切れない関係にある。善悪、正邪、美醜など、私たちの行動の意味を決める者は誰であれ、何を考え、どう振る舞うべきかを私たちに命じる権威も手に入れる。(35 ペ)

○絶望的な難民の気持ちと不安なドイツ人の気持ちという、相容れないものの折り合いを、どうつけばいいのか？

自由主義はそのような矛盾について永遠に苦悩する。ロックやジェファーソンやミルと彼等の同輩がどれだけ頑張っても、この手の難問に対する迅速で手軽な解決法は提供できなかった。民主的な選挙を行っても助けにならない。誰がその選挙で投票できるかという問題が出てくるからだ。…(中略)…選挙は、基本的な事柄ですでに合意している人々の間での意見の相違を処理するための方法なのだ。(67 ペ)

○政治学者たちも、人間の政治制度をしだいにデータ処理システムとして解釈

するようになってきている。資本主義や共産主義と同じで、民主主義と独裁制も本質的には、競合する情報収集・分析のメカニズムだ。独裁制は集中処理の方法を使い、一方、民主主義は分散処理を好む。過去数十年のうちに、民主主義が優位に立った。20世紀後期に特有の状況の下では、分散処理のほうがうまく機能したからだ。古代ローマ帝国では一般的だったもののような、別の状況の下では、集中処理のほうが優った。そのために、共和制ローマは滅び、権力は元老院と市民集会のもとを離れ、単一の独裁的な皇帝の手へと渡ったのだ。

これは、21世紀に再びデータ処理の条件が変化するにつれ、民主主義が衰退し、消滅さえするかもしれないことを意味している。データの量と速度が増すとともに、選挙や政党や議会のような従来の制度は廃れるかもしれない。それらが非論理的だからではなく、データを効率的に処理できないからだ。このような制度は政治がテクノロジーよりも速く進む時代に発展した。19世紀と20世紀には、産業革命がゆっくりと進展したので、政治家と有権者はつねに一步先行し、テクノロジーのたどる道筋を統制し、操作することができた。ところが、政治の動きが蒸気機関の時代からあまり変わっていないのに対して、テクノロジーはギアをファーストからトップに切り替えた。今やテクノロジーの革命は政治のプロセスよりも速く進むので、議員も有権者もそれを制御できなくなっている。(217 ペ)

○アメリカのNSA(国家安全保障局)は私たちの会話や文書をすべて監視しているかもしれないが、この国の外交政策が繰り返し失敗していることから判断すると、ワシントンにいる人は集めた膨大なデータをどうすればいいのかわかっていないようだ。世界で何が起きているかを一政府がこれほどよく知っていたことは歴史上かつてないが、それでも、現代のアメリカほどしくじりを重ねた帝国はほとんどない。アメリカは、相手がどんなカードを持っているかを知っているのに負けてばかりいる、間抜けなポーカープレイヤーのようなものだ。(218 ペ)

○…データ至上主義者は、経済成長も含めて、良いことはすべて情報の自由にかかっていると信じている。なぜアメリカはソ連より速く成長したのか？ アメリカのほうが、情報が自由に流れたからだ。なぜアメリカ人のほうがイラン人やナイジェリア人より健康で裕福で幸せなのか？ 情報の自由のおかげだ。だから、より良い世界を作り上げたいなら、そのカギはデータを自由にするところにある。(229 ペ)

※※※以下、鳩祭古本位置で入手した本の紹介

◆茂木健一郎編『プロフェッショナル・仕事の流儀・10』(NHK出版・2007年)(私物)

○紹介されているのは「編集者・石原正康」「コンビニ経営者・新浪剛史」「玩具企画開発・横井昭裕」。印象に残ったフレーズ「原稿を頼む相手に《あなたの原稿が読みたい》という《飢え》を伝えることが大事でしょう」(石原氏・33 ペ)。「中途半端なものがいちばん売れ行きが悪い。だから、思いきりが必要なんです」(新浪氏・91 ペ)、「組織の階層をフラット化して直接、話をする方が、本当の意味で効率的かつ効果的」(新浪氏・101 ペ)、「私はこの業界が好調だとは全

く思っていない。三年後は怖くて怖くてたまらない」(新浪氏・83 ペ)
),「チャレンジしていないと人生は面白くない。常に新しいことにチャレンジして、ワクワクドキドキしていきたい」(横井氏・161 ペ)
○読みやすい。いま、読んでも古くない。逆に、どういう発想がじっさいに10年間の風雪に耐えたのか……が実験的に読み取れるから、「深読み」できる。

◆吉良創(きら・はじめ)編著『シュタイナー教育・おもちゃと遊び』(学研・2001年)(私物)

○手仕事の準備と片づけ……手仕事を子どもとする場合、その準備はとても大切です。

その手仕事に必要なものをまず用意しておきます。そのときの子どものようにすぐ対応できるように、必要とされる可能性のあるものは用意しておきます。出しておかなくてもそのときに探し回らなくてもよいようにしておきます。そして仕事が終わってから、道具を元どおりに片づけ、その場をきれいにします。

木工の場合など、作業中、そこは木工所のような本当の仕事場の雰囲気になります。仕事が終わるとまた元の空間に戻ります。教師や大人はその作業の用意から後始末までのプロセスをしっかり前もってよく考えていて、意識的にその仕事ができると、子どもたちはその仕事を共にすることによって、その仕事のプロセスを貫く大人の思考やその仕事の秩序を無意識に感じていきます。

そして大人が自分のする手仕事についてしっかりと考えることによって、子どもたちはどうすればよいのかがすぐわかり、よけいな説明抜きで仕事のプロセスに入っていくことができます。この体験は将来的に明晰な思考へとつながっていきます。(170 ペ)

◆ニュートンムック『別冊ニュートン・数学の世界・現代編』(NEWTON PRESS・2019年)

○ベイズ統計、フーリエ解析、ブロックチェーン、本当に役に立つ数学の話、統計の正しい知識、……等々についてカラー・イラストを使って平易に説明。親しみがわきやすい。少なくとも統計に「わけわからん」という偏見を持つ状態から抜け出すことはできた…と思う。

◆浅見寛洞著『漢字・書道上達のすべて』(上巻) (1993年・NHK出版)

○楷書、行書、草書の見本帳。

○人類が初めて文字を発明し、徐々に各書体に進展して、現在に至りました。その英知との相乗作用によって、こんにちの驚くべき社会の発展を遂げたのは、文字が時間、空間を直結したことによるものです。(じつに新鮮かつ重要なもの見方にあらためて感心してしまう)

○……草書は文字のくずし方の予備知識がないと、難しく、スムーズに書けません。そのための学習が必要になってきます。

書の練習は、ただ漠然と手当たり次第に書いただけでは、時間ばかりを費やし、効果はあがりません。基本からしっかりと着実に始めないと砂上の楼閣のよう

にあやふやなものになってしまいます。字画の構成や基本を身につけ、結体の必要性を感じとって練習に励むことが、なによりも大切です。(注：結体(けったい)とは、間架結構によって出来上がった文字の形をいう。Wikipedia…要するに「結体」というのは普通の言葉に言い換えると「構造」「構成」「秩序」とその必然性のことと理解した…柳沢)

◆有元秀文著『子どもが必ず本好きになる 16 の方法・実践アニメーション』(合同出版・2006 年)(私物)

○アニメーションとは「元気にする」という意味。(8 ペ)

○基本的な考え方、●楽しくなくてはあにましおんではありません。●アニメーションは遊びです。●コミュニケーションを大切にしてください。●絶対にアニメードール(リーダー)の考えを押しつけてはいけません。●沈黙を大切にしてください。

○もくじより

1. 集中して本を聴く子どもを育てる
2. 集中して絵を見る力をつける
3. 集中して本を見、話し合っって問題を解決する力をつける
4. 集中して本を聴いて理解し、体で表現できる子どもを育てる
5. 集中して本を聴き、質問に論理的に答える子どもを育てる
6. 話し合っって問題を解決し、論理的に構成できる力を育てる
7. 想像力と論理的表現力を育てる
8. 物語の本質をつかみ、創造的に表現できる子どもを育てる
9. 自分で問題を発見し、自分の意見を発表できる子どもを育てる
10. 集中して聴き、相互批判によって文章の誤りを批判的に判別できる子どもを育てる
11. ディベートのできる子どもを育てる
12. クイズで楽しみながら、集中して読める子どもを育てる
13. 俳句を楽しみながら、言語感覚を磨き、創造性を育てる
14. 詩が大好きな子どもを育てる
15. 詩の音読が大好きな子どもを育てる
16. 詩的な言語感覚を養い、詩を構成する力を育てる

※これは言語を取り扱う姿勢を次第に高度なものに誘導するプロセスそのものであると言ってよい。(柳沢注)

◆あとがき

久しぶりの読書会+リアル例会の前に大急ぎで作成。仕事の優先順位と時間の使い方にまだまだ工夫が足りていない。とにかく動きながらスキルを向上させていくことが大切だ…と思うきょうこの頃です。[2020年10月24日(土)昼、記す]